

令和7年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立白鳥中学校		NO.			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価	
学力向上×ICT活用	<p>1 「互いに支え合い、ともに高め合い、活動できる生徒の育成」～違いを認め合い、つながりを大切にする関係を目指して～仲間づくりを土台にした「わかる！伝える！授業力UP！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「ふり返り」の質の向上 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり <p>2 学力向上推進委員会を中心とした取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査(学調)自校採点、みえスタディ・チェック(みえスタ)分析、 ・小中連携の学調・みえスタ結果分析 ・学調・みえスタ過去問、「学Viva」セット、読む書くワークシート活用 <p>3 定期テスト前の補充学習、長期休業中の学習支援</p> <p>4 「学校の先生は自分たちにわかりやすく授業を工夫してくれる」と答えた生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R3:92.6%⇒R4:95%⇒R5:93.8%⇒R6:94.8%⇒R7目標95.0% <p>5 ICT活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や活動に応じた効果的な活用 ・子どもの主体的な個別最適な学び、協働的な学びでの活用 ・教職員のICT活用指導力の向上 ・ICTを活用した課題による家庭学習 <p>6 情報活用能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育の推進 ・ICT支援員の有効的な活用 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北勢人権公開発表を経て、ペア学習やグループワークを増やしたり、個別最適な学習・複線型学習などを取り入れたりして、仲間づくりを意識した授業改善が進められた。 ・授業改善を行うなかで、1人1台パソコンを使う場面が増えた。 ・プチ公開授業や学年会の中での話などで、先生たちの授業を見たり学んだりする機会があったことで授業改善につながった。 「授業でわからないことを、友達に聞くことができる」R7:92.5%、「授業中、すすんで発言したり考えを発表したりしている」R7:52.7% 「学校の先生は自分たちにわかりやすく授業を工夫してくれる」R7:92.1% <p>みえスタディチェック(平均正答率:県との比較)</p> <p>R6:2年国語-4.2p⇒R7:-6.6p R6:1年国語-4.2p⇒R7:+1.9p R6:2年数学-1.5p⇒R7:-6.5p R6:1年数学-1.5p⇒R7:+3.9p</p> <p>全国学力学習状況調査(平均正答率:全国との比較)</p> <p>R6:3年国語-5.1p⇒R7:-3.3p R6:3年数学-4.5p⇒R7:-6.3p</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン使用の頻度が上がるにつれ、情報モラル(規律や規範意識)を身につけていく必要がある。 ・研修の柱を「人権教育」に据えて取り組んだことにより、生徒は、自分の思いを表現したり、他者と協力して学習活動を行うことはできるようになってきたが、直接、学力の向上に結びつけることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰一人取り残さない学びの推進や授業改善に一層取り組む必要がある。 よむYOMUワークシートについては、解説の仕方などを工夫する。 ・図書巡回指導員と連携し、読書の機会を増やし、本に親しむ態度を養う。 ・読む・聞く・話す力をグループ活動を通して言語能力を高める授業を継続して行っていく。 ・漢字の定着など語彙力が少しでも身につくように、毎時間漢字テストの実施など、小テストの時間を確保していく。 ・数学においては基礎、基本はもちろん、記述式の問題にも挑戦できるように、授業を工夫し改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育が進む中、スマホだけでは情報不足のため、新聞やテレビのニュースから情報を得たり考えたりするような力を身につける必要がある。(新聞を読まない若い人が、警察を名乗る詐欺事件について知らない) ・学力向上とICTの活用が結びついていない。ICTをもっと活用し、基礎学習の充実を図ってほしい。 ・ICT活用に伴い、能力が低下する傾向にあると思うので、漢字テストなどは継続する必要がある。 ・文章の読解力の向上については、読書(クラスへの図書配置)や新聞等とのふれあいの機会を増やすことは評価できる。 ・学科に関わらず文章を読み解く力はどのようなのか。 ・学力向上は、日々の積み重ね。読書も、ただ読むだけではなく、理解が必要。ICT活用は意欲向上につながっている。 ・学力向上に向けて、今後の具体的な成果につながる取組を期待している。 	
	長期欠席対策	<p>1 人とかかわりを大切にする取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動、積極的な声かけ、小グループの活用、学級づくり <p>2 生徒理解に基づく指導と問題行動の未然防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告体制の徹底 ・特別支援教育の視点に基づく生徒理解と組織的な対応 <p>3 不登校を改善する支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな不登校を生まない学級・学校づくり ・未然防止、初期対応、自立支援の充実 ・週一回の教育相談部会での情報共有および支援策検討 ・不登校生徒R3:24人⇒R4:20人⇒R5:16人⇒R6:14人⇒R7目標13人 <p>4 相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート、教育相談(各年3回) ・カウンセリングマインド(生徒指導) <p>5 関係機関等との連携</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議の実施により、組織的な対応ができたケースがあり、生徒の個に応じた対応、段階的な支援ができた。また、登校や進路指導の面談につながった。 キーパーソンの設定や学年内での役割分担によるチーム支援により、担任への負担を配慮しながら対応することができた。 ・ハートテラスの柔軟な運用により、学級以外の居場所となり、学校へ登校するきっかけをつかんだり、学級へ戻るための準備ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月末現在、30日以上欠席生徒16人(4.7%)である。前年度の4.8%と比べて横ばいの傾向にある。休みの原因が(特定できなくても)、家庭での過ごし方や学習への姿勢を把握し、初動の対応やケース会議の設定をより迅速に行うことが求められる。 ・十分な教育相談期間を確保することが難しかった。人間関係などが複雑化する2学期の教育相談は生徒の話をじっくり聞くことに徹したいが、大きな行事や発表と重なっていた。期間の見直しが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談部会での情報共有や手だての検討を充実させ、子どもの状況に応じた早期支援につなげる。 ・教育支援課、子ども家庭支援課と連携し、不登校を生まない指導や支援について教員研修を行う。 ・教育相談等を通じて、学習に関することや友達関係など、生徒の思いを把握し、教員同士、保護者との連携を図ることで、早期対応に努める。 ・不登校の生徒への関わりや支援はもちろん、保護者との関係づくりや支援に取り組んでいく。 ・不登校生徒の学習の機会の保障を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが無理なく教室に戻れる環境づくりをお願いします。 ・親を含め、相談可能な場をもう少し増やして、情報収集をお願いします。 ・不登校の原因や背景をしっかりと追及する必要がある。 ・不登校への対応は、保護者とカウンセラーとの面談も必要である。 ・不登校生徒の対応で、さまざまな学習の機会を増やしていることは評価できる。 ・小グループの活用で、誰とでも話せる機会を増やせれば良いと思う。 ・生徒たちが悩んでいることを素直に話せる居場所づくりを。学校、家庭との連携を密に取り組んでほしい。 ・個に応じた支援を進めている姿勢がうかがえる。引き続き、未然防止と再登校支援の両面からの取組を期待している。
		非認知能力育成	<ul style="list-style-type: none"> ・やり抜く力、自制心、自己肯定感、社会性を高めるための研修会の実施 ・レジリエンス教育の実践、アンケートの実施 ・授業や部活動、生徒会活動などあらゆる活動場面で自己肯定感や粘り強さ、やり抜く力などを身につける。 ・やり抜く力 否定的割合 R5:7.2%⇒R6:10.7%⇒R7目標:10%未満 ・自制心 否定的割合 R5:9.7%⇒R6:17.8%⇒R7目標:10%未満 ・自己肯定感 否定的割合 R5:14.1%⇒R6:8%⇒R7目標:10%未満 ・社会性 否定的割合 R5:1.3%⇒R6:4.5%⇒R7目標:10%未満 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間6回のレジリエンス教育を実施し、自己肯定感や自己効力感を育んだ。 ・各学年、計画的に人権学習に取り組むことができた。「安心して過ごせるクラス、仲間づくり」を通して他者との関わり、社会性や自尊感情、自制心、ともにやり抜く力を身につけることができた。 ・仲間づくりを土台とした授業づくりに取り組み、クラスや班で話し合ったり議論したりすることを通して、互いに認め合う土壌が形成された。 「自分には、よいところがあると思う」R6:83.8%⇒R7:79.5%、「自分もやればできると思う」R6:88.2%⇒R7:87.9%、 ・自制心 否定的割合 R5:7.2%⇒R6:10.7%⇒R7:8.9% ・自己肯定感 否定的割合 R5:14.1%⇒R6:8%⇒R7:16.7% ・社会性 否定的割合 R5:1.3%⇒R6:4.5%⇒R7:1.3% <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を根幹にしたクラス、仲間づくりの継続が必要 ・クラスはもちろん地域や保護者、学年間等の交流や関わり、体験等の機会を増やし、自己有用感や自尊感情、社会性が育つ環境づくりをしていく必要がある。 ・非認知能力の育成についてさらに教職員研修を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・達成感を感じられるような、生徒主体となった協同学習や活動の機会を増やす。 ・非認知能力の育成についての教員研修を行う。 ・学年に応じた体験学習や出会い学習の機会を設定する。 ・小中一環連携として、校区で非認知能力の育成に取り組む。

地域連携	<p>1 小中連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーマディアデーの実施 ・家庭学習の充実 ・校区で共通した取組 <p>2 家庭・地域への発信・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での熟議と具体的取組の実施 ・学校だよりや学校ホームページでの情報発信 <p>3 地域の教育力の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアの活用推進 ・部活動指導員の活用 ・登下校時の見守り <p>※「学校は家庭への連絡や意思疎通を行い、よりよい連携を行っている」と答えた保護者</p> <p>R3:75%⇒R4:75.4%⇒R5:76%⇒R6:77.4%⇒R7目標:78%</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区全体で「ノーマディアデー」の取り組みは継続して実施し、定着している。 ・学校運営協議会では担当者から学校の取り組みの様子を説明し、それをもとに、活発な熟議を行った。委員からの意見を学校経営改革に活かすことができた。 ・1学期、2学期に各1回授業公開を行い、たくさんの保護者に来校いただいた。 ・学校支援ボランティアとして、地域や保護者の方に声掛けや見守り活動等の協力を得ている。 ・R5年度から卓球部に部活動指導員が配置され、有効に活用できている。 <p>「学校は授業や行事への参観、保護者会などを通して、保護者の意見を聞くことしている。」</p> <p>R6:84.4%⇒R7:79.7%</p> <p>「学校は、学校での子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」</p> <p>R6:61%⇒R7:66.1%</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の学校支援ボランティアの登録が少ない。保護者の方や地域の方にボランティア募集を呼び掛けていく。 ・教員や生徒が地域の方と関わる機会が少ない。地域の資源を活用できるよう、地域との連携を推進していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校の見守りについては、地域の方々にボランティア等でご協力いただき、学校の生徒の現状とともに見ていただく。 ・保護者の方や地域の方にボランティア募集を呼び掛けていく。 ・学校ホームページや学校だより、学年通信等で、行事の際だけでなく、日頃の生徒の学びの様子や成長を積極的に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録について、加佐登地区まちづくり協議会の協力を得る等、呼びかけをしてみてください。 ・学校通信で、もっと生徒の近況報告を増やしてはどうか。 ・保護者への情報共有、公開については「tetoru」をもっと活用するのいいと思う。学校運営協議会の内容も「tetoru」で配信してはどうか。家庭学習の充実において、ノーマディアデーは小学校から定着しているが、5つの小学校での差異はないのか。 ・学校がどのような課題を抱え、地域のみなさんに何を求めているのかを率直に発信することが必要である。 ・地域への呼びかけや発信のやり方を考える。(行事結果報告も大切だが、行事予定、内容を発信してはどうか) ・地域との連携で、施設での吹奏楽部演奏、好評であった。学校だより、生徒会報告は、生徒たちの考えがよくわかるので、今後も継続を。 ・地域との連携を大切に、教育活動の充実に努めている点を評価する。学校と地域が相互に支えあう体制が着実に構築されていると感じる。
学校における働き方改革	<p>1 総勤務時間の縮減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過重労働平均一人当たり月平均 R7目標値:20時間以内 ・月45時間を超える時間外労働者0人 ・一人当たり年間休暇取得 R7年目標値:23日以上 ・設定した日の定時に退校できた職員の割合 R7目標値:100% ・放課後に行う会議の時間60分以内に終了した割合 R7目標値:80% <p>2 関わり合う職場環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員育成を中心としたOJTの推進 ・業務内容の平準化 <p>3 コンプライアンスの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内校務のICT化で、打ち合わせの時間の短縮化を図ることができた。 ・時間割に教科部会を位置付けたことにより、教科指導についての相談や、評価検討、指導案検討を行う時間を確保できた。 ・職員会議の事項書を事前にICT端末で共有することによって、提案時間が短縮され、ほぼ60分で会議を終了することができた。 ・職員会議で時節柄に応じたテーマでコンプライアンス研修を行い、不祥事の未然防止に努めた。 <p>・過重労働平均一人当たり月平均 R7目標値:20時間以内⇒28.3時間(12月末)</p> <p>・月45時間を超える時間外労働者0人⇒のべ46人 月当たり5.1人(12月末)</p> <p>・一人当たり年間休暇取得 R7年目標値:23日以上⇒11.4日(12月末)</p> <p>・設定した日の定時に退校できた職員の割合 R7年目標値:100%⇒98.7%(12月末)</p> <p>・放課後に行う会議の時間60分以内に終了した割合 R7年目標値:80%⇒79%</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、成績処理、進路指導等により、担当者の業務が増えることがある。 ・今年、11月に人権教育に関する授業発表が白鳥中学校で開催されたこともあり、授業の準備や会議等が多く、時間外勤務時間が増えた月もあった。 ・時間外勤務の中には、休日の部活動の割合が大きい。部活動の地域移行が進むことにより、時間外勤務が解消されることが望まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌を見直し、学校運営に必要な仕事分担について精査し改善していく。 ・職場の同僚性を高め、風通しのよい職場づくりを進める。 ・部活動の活動時間を原則「放課後」とし、教職員の負担軽減につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の設定数値を見直してみようか。 ・共働き家庭が多い中で、電話連絡等、時間外への対応になることが多いと思う。先生と保護者の連絡ツールとして「tetoru」が活用できるようになったらと思う。昼休憩をしっかりと確保できているかも気になる。 ・年間総労働時間管理のもと、総労働時間を平準化できるようにメリハリをつけて管理を。 ・休日の部活動を学校から地域活動へ移行する取組の推進に期待する。(学校も保護者、地域にアピールを) ・部活動が地域に移行するので、時間外労働は減ると思うが、生徒への関わる時間は減らしてほしくない。 ・ストレスが少なく、ゆとりを持った職場にするための取組の継続を。 ・教職員の負担軽減を意識した組織的な取組が進められている点は意義深い。教育の質の向上と両立する形での更なる推進を期待する。
人権教育	<p>1 人権教育推進計画に基づく人権学習を軸に、全教育活動を通しての人権教育の実施</p> <p>2 校区人権フォーラムの推進、いじめ防止標語の取組</p> <p>3 人権教育カリキュラムの見直しと学年の人権課題や実態に応じた人権学習</p> <p>4 グループエンカウンターやアサーションを中心としたSSTの取組</p> <p>5 「生き方学習」を通しての人権教育の実施</p> <p>※「クラスでは人に対する思いやりが大切にされている」と答えた生徒</p> <p>R2:81.9%⇒R3:85%⇒R4:85.3%⇒R5:86%⇒R6:83.5%⇒R7目標:85%</p>	<p>【成果】</p> <p>11月の北勢人権に向けて、各学年ごとに学年の様子を見直す中で人権課題を明らかにし、それらを克服するために学年独自の学習内容を展開することができた。また、当日に至るまで、人権センターと連携して計画的に人権学習の実践に取り組んだ。北勢人権では、1年生は障がい者の人権、2年生はインターネットの人権、3年生は部落問題学習をテーマに行った。また、人権講演会や人権フォーラムを実施し、子どもたちが人権的な課題や問題について、自分事として考える機会をつくった。</p> <p>さらに、授業改善等に係るアンケート調査において「クラスでは人に対する思いやりが大切にされている」の項目では、肯定的回答が1年生で90.2%、2年生で73.7%、3年生で92.1%となっており、平均すると85.3%で、目標を達成することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>北勢人権に向けた各学年の取組はよかったが、大切なのはそういった取組を続けていくことである。この機会に学習したことをさらにブラッシュアップさせ、継続した人権教育の推進が今後の課題と思われる。そのため、学年の人権課題をしっかりと共有し、それらを克服するための手立てを常に考えられる学年や職場の雰囲気をつくっていかねばならない。</p>	<p>【人権部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仲間づくり」の視点を大切に、すべての教科で横断的に取り組めるようにしていく。 ・今年、SNSに関する講座や、LGBTQに関する講座などを行えたので、来年度も外部講師を招いて話を聞く機会を設けたい。 ・人権学習の成果を地域や保護者に広く発信できる機会を持つ。 ・校区連携を図り、校区人権フォーラム等を継続する。 <p>【生徒会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や文化祭を通して、生徒の主体性を生かした企画・運営をしていく。 ・ピンクシール運動だけでなく、生徒を主体としたいじめ防止の啓発活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんと謝れない子が増えているという新聞記事があった。トラブルの際、「自分だけじゃない」「相手が先にやった」と自分の正当性を主張する。最近、保護者の中にも「謝罪したら負け」と考える人がいる。勝ち負けの問題ではなく、良好な関係を作れるよう指導を。 ・他校との交流を増やして、行事を一緒にやってみたい。 ・生徒の自主性をもう少し多く取り入れてみたい。 ・人権教育は、不登校対策の取組と共同で考えていく課題の一つと考える。 ・北勢人権発表会の経験を踏まえ、活動の充実を継続して取り組んでほしい。各学年の意識実態を踏まえて取組を進めてほしい。 ・生徒をよく見ることは大切だが、根底まで見抜くことは難しい。生徒たちで話し合ったり、体験したりする中で人権を尊重する心を養っていくもの。ビデオ等の教材を使って、人権の大切さを学ぶことも必要。 ・人権教育を教育活動全体の基盤として位置づけ、計画的に推進している点を評価する。互いを尊重しあう態度の育成につながる取組の継続を期待する。